

「患難前携挙説」の根拠とされる『試練の時から…守ろう』という聖句の考察

「あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。」-3:10

この聖句について、再臨二段階説の人々はこう注釈します。

『試練の時には…守ろう』の『には』の原語は ἐκ(から)であり、これは『試練の時から…守ろう』と訳される。だから教会は、来たるべき試練の時である患難時代の前に、地上から携挙され、取り去られて守られるであろう。

神の「あなたを守る」という言葉に全幅の信頼を置くことができず、何としてでも患難から逃れたいと思うあまり、「試練の時には」の「…には」と訳されている原語のギリシャ語の前置詞「エク」は「…から」とも訳され得るので、この文は、つまり試練の時を経験しないように守ろう、という意味に違いない。

つまり、その守る方法とは、ずばり、クリスチャンが患難時代の前に地上から引き上げられる、これこそあの「携挙」されることを指しているに違いない。

いや絶対にこの理解で間違いない。異論を唱えるヤツは異端だ。と主張するに至ったのでした。

しかし、あなたご自身で、よ〜く文面を読み、考えて下さい。

遭遇することのない（試練の時の）災いから「守る」必要がどこにあるでしょうか。

遭遇するからこそ、その災い、危険から「守られる」必要があるのではないのでしょうか。

神が、クリスチャンを患難に遭遇させず、その前に取り去ることを意図しておられたなら「守る」という約束など不要です。

むしろ、「あなたは試練の時には何の心配もいらぬ。」というような保証の言葉が語られるはずですよ。

「あなたを守る」というのは本当に危険に遭わない、困難を経験しないという意味でしょうか。

◆【神がご自分の崇拝者を「守った」過去の事例】

「義を説いていたノアたち八人を保護なさったのです。」—IIペテロ 2:5 新共同訳

「古い世界を放置しなかったが、義の宣教者であるノアら八人は保護した。」岩波翻訳

「義の宣伝者ノアら八人だけを守って、…」前田訳

「義の宣教者ノアとも八人（だけ）を（滅亡から）守り給うたとするならば…」塚本訳

ノアとその家族を守られた、と言うのは洪水に遭遇しなかったわけではありません。

洪水と、それに続く水の上での漂流期間のために、方舟や食物等を事前に備えさせ、生還できるように導かれたということです。

黙示 3:10 に見られる「守る」と訳されている原語「ギリ語：テレオ（守る、観察する 保護する、監視、監視する）」について更に詳しく調べてみましょう。

この語句は聖書中に全部で 71 箇所に見られます。

すべての使用例から明らかなのは 100% 「現状維持」というニュアンスです。

◆【守る】（注意して、約束・おきてなどに反しないようにし続ける）

「戒めを守り [テレオ] なさい。」—マタイ 19:17

これと同様な内容として「命令、律法、安息日、戒め、み言葉、信仰」などを を守る [テレオ] という主な聖句は次の通り。

マタイ 23:3; 27:36; 27:54; 28:4; 28:20

ヨハネ 2:10; 8:51,52; 8:55; 9:16; 14:15; 15:20; 17:6; 14:21,23,24

使徒 15:5: I テモテ 6:14 II テモテ 4:7 I ヨハネ 2:3; 2:4; 2:5; 3:22; 5:3

ヤコブ 1:27; 2:10 黙示 1:3; 2:26; 3:3; 3:8; 12:17

◆【番をする、見張る】

「イエスの見張り [テレオ] をした。」—マタイ 27:36; 27:54 使徒 16:23

「番兵 [テレオ] たちは、御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。」—マタイ

28:4 使徒 12:56

「牢に閉じ込められ [テレオ] していた」—使徒 12:5

「パウロを監禁する [テレオ] ように命じたが・・・」—使徒 24:23

「パウロはカイザリヤに拘置され [テレオ] しているし・・・」—使徒 25:4

「皇帝の判決を受けるまで保護して [テレオ] ほしいと願い出たので・・・」—使徒 25:21

◆【保つ、放置】

「良いぶどう酒をよくも今まで取っておき [テレオ] ました。」—ヨハネ 2:10

「葬りの日のために、それを取っておこう [テレオ] としていたのです。」—ヨハネ 12:7

「御名の中に、彼らを保って [テレオ] ください。」—ヨハネ 17:11

「処女である自分の娘をそのままにしておく [テレオ] のなら、そのことはりっぱです。」—

I コリント 7:37

「平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。 [テレオ]」—エペソ 4:3

◆【留置、保持】

「これはあなたがたのために、天にたくわえられている[テレオ]のです。」

一Ⅰペテロ 1:4

「さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めて[テレオ]されました。」

一Ⅱペテロ 2:4

「不義な者どもを、さばきの日まで、懲罰のもとに置く[テレオ]ことを心得ておられるのです。」一Ⅱペテロ 2:9

「裁きの日まで閉じ込めておく」(新共同訳) 拘束する(前田訳)

「彼らに用意されている[テレオ]ものは、まっ暗なやみです」

一Ⅱペテロ 2:17;一ユダ:13

「待ち設けている」(岩波翻訳) 「取って置かれている」(塚本訳)

「同じみことばによって、火に焼かれるためにとっておかれ[テレオ]」一Ⅱペテロ 3:7

「そのままにしておかれるのです。」(新共同訳)

「また、主は、自分の領域を守ら[テレオ]ず、自分のおるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められ[テレオ]しました。」一ユダ:6

◆【「テレオ」と同義語が同じ文脈に見られる例】

「わたしの戒めを保ち[エコー]、それを守る[テレオ]人は、わたしを愛する人です。」

一ヨハネ 14:21 23, 24 も同様

「ギ語：エコー」(I have, hold, possess 経験する 維持 保持)

「もし、あなたがたがわたしの戒めを守る[テレオ]なら、あなたがたはわたしの愛にとどまる[メノ]のです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って[テレオ]、わたしの父の愛の中にとどまっている[メノ]のと同じです。」一ヨハネ 15:10

「ギ語：[メノ]」(I remain, abide, stay, wait; I wait for, await.

残って、守って、滞在する、待つ、待って、滞在する)

「わたしは彼らといっしょにいたとき、あなたがたに下さっている御名の中に彼らを保ち[テレオ]、また守り[フーラーツ]ました。」一ヨハネ 17:12

「ギ語：フーラーツ」 I guard, protect; mid: I am on my guard, and mid. of customs and regulations: I keep, observe.

(私は守る、保護する、慣習と規制について：守り続ける、観察する)

これらすべての「守る(テレオ)」の用例・用法は、「そのただ中に留める」という意味を含み、保護となっている囲い(バリア)の外側には例外なく、敵、誘惑、諦め、悪者などの影響力に晒されている状態を描いています。

◆【ギリシャ語の前置詞「エク」を伴う「テレオ」の使用例・比較】

冒頭のところで、「患難前携拳説」を支持する聖書的根拠としてよく用いられる論議を引用しました。改めてもう一度ここに示してみます。

『試練の時には……守ろう』の『には』の原語は ἐκ(から)であり、これは『試練の時から……守ろう』と訳される。だから教会は、来たるべき試練の時である患難時代の前に、地上から携拳され、取り去られて守られるであろう。

ギリシャ語の前置詞「エク」を「には」と訳そうが「から」と訳そうが、そんなことは全くどうでもいいというくらい、意味は明白です。

前述したように「守る」という語自体に「ただ中」というニュアンスを含んでいます。

次に挙げる例からそのことは確証されています。

「彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から[エク]守って[テレオ]くださるようお願いします。」一ヨハネ 17:15

2つの聖句を比較してみました。同じ構文だということにお気づきになると思います。

黙示 3:10

se	tērēsō	ek	tēs	hōras	tou	peirasmou
σε	τηρήσω	ἐκ	τῆς	ώρας	τοῦ	πειρασμοῦ
you	will keep	out of	the	hour	of the	of trial
Pro-A2S	V-FIA-1S	Prep	Art-GFS	N-GFS	Art-GMS	N-GMS
あなたを	守る	から		時		試練

ヨハネ 17:15

tērēsēs	autous	ek	tou	ponērou
τηρήσης	αὐτούς	ἐκ	τοῦ	πονηροῦ
you should keep	them	from	the	evil [one]
V-ASA-2S	Pro-AM3P	Prep	Art-GMS	Adj-GMS
あなたを 守る		から		悪者

「エク」を「から」と訳してみたところで、何も変わりません。

「■■」からあなたを守る[テレオ]ことが、「世から取り去る」ことではないとはつきりと書かれています。

つまり「神から守られる」というのは、世から別の場所へ移すことによって、悪者に遭わないようにするという事ではない。ということです。

言われるまでもなく、分かりきったことのように思えますが、万が一とんでもない勘違いをしてしまわないようにという、イエスの細かな気遣いが伺えます。

「あなたは忍耐についてのわたしの言葉を守った[テレオ]。それゆえ、地上に住む人々を試すため全世界に来ようとしている試練の時に、わたしもあなたを守ろう。[テレオ]」
—黙示 3:10

この試練から守るという約束は何に基づいているのでしょうか。
直接的には、それはすぐ前の「私の言葉をあなたが守ったゆえに」ということです。
端的に言えば、あなたが守ったので、私も守るという約束です。
ここで守られているのは「ことば」と「あなた」です。

この試練の時には、「あなたを守る」というのが「あなた」を地上から取り去るゆえに、つまり保護する必要のない状態に「あなた」を置くことだいう論法がまかり通るのであれば、そのすぐ前の「ことばを守る」とは、神のみ言葉、掟を自分から取り去り、「ことば」に触れないようにし、つまり放棄して、「神のことば」を保つ必要のない状態に置く、つまり何の責任も問われないと思込むことによって「守った」ということになります。

黙示 3:10 が「患難前携拳説」の根拠であるどころか、根も葉もないただの妄想、勘違いであることは明白です。